

邦銀の貸出金利の決定構造と金融競争度の影響

埼玉大学大学院生 杉山 敏啓

1. 邦銀の貸出金利を巡る問題意識

邦銀の低収益性問題は、貸出金利の絶対水準の低さが、原因の一つであると言われてきた。日本銀行「金融システムレポート 2017 年」は企業向け貸出金利の低下に関して、市場金利低下や企業の信用リスク安定化という要因に加えて、金融機関間の金利競争を指摘している。そして邦銀の低収益性の背景にある過当競争を示唆する事象として、可住地面積あたりの店舗過密問題を挙げた。銀行等の過当競争は、貸出金利の低水準問題の大きな原因となっているのであろうか。

2. 預貸利鞘設定行動モデル

銀行等の貸出金利の決定理論は、市場金利への追随率に着目したアプローチ、貸出市場の需給均衡に着目したアプローチ、銀行の預貸利鞘設定行動モデルによるアプローチなど、多くの先行研究が行われている。金融競争度が貸出金利に及ぼす影響度の評価には、預貸利鞘設定行動モデルを用いた実証分析は有効な方法論である。元々の *dealership model* は金利リスクと信用リスクを説明変数とする単純化された理論であるが、これを先行研究および現実の銀行貸出プライシング行動を考慮して拡張した上で本研究の分析に用いた。

3. 邦銀の貸出利鞘の決定構造

銀行パネルデータによる分析の結果、貸出利鞘（貸出金利－預金金利）の決定要因として貸出ポートフォリオ特性、経費率、調達レートの影響度が大半を占めることが確認された。地域銀行の平均貸出金利は 2007～2016 年度にかけて低下しているが、その低下要因の大半は調達レート低下と経費率低下によって説明される可能性が高い。

高水準の金融競争度は、貸出利鞘の低下要因として作用する有意な関係性が、店舗シェアに基づくハーフィンダール指数逆数を説明変数に加えた同分析によって確認された。ただしその影響度合いは、貸出金利低下の主因と言えるほどの大きさではなかった。

地域銀行が合併すると、地域の金融競争度は短期的に変化し、貸出利鞘の上昇要因として作用する可能性が高い。他方、合併効果が顕在化して経費率が低下すれば、貸出利鞘の低下要因として作用する可能性も高い。両要因のいずれが勝るかは合併事案次第であるが、本研究のモデル式を応用したテストでは、総合的には貸出利鞘の低下効果の方が勝る場合が多いことが示唆された。

以上